

様式第 6 号（第 6 関係）

被害防止計画目標評価報告書（令和 7 年度）

1 事業実施主体名 柏原市

2 対象地域及び実施期間

対象地域	大阪府柏原市全域
実施期間	令和 5 年度～令和 7 年度

3 被害防止計画目標の達成状況

目標指標	対象 鳥獣	基準年 4 度 （令和年度 ）の実績値 （A）	目標値 （B）	目標年度 （令和 7 年 度）の実績 値 （C）	達成率 A－C ／A－B	備考
被害金額		千円	千円	千円	%	
	イノシシ	1, 5 4 1	3, 5 3 1	1, 9 9 2	2 3	
	カラス	3, 6 7 8	3, 4 9 4	2, 3 9 4	6 9 8	
	アライグマ	4, 7 8 8	4, 5 4 8	1 0, 8 1 0	－ 2, 5 0 9	
	合計	1 0, 0 0 7	1 1, 5 7 3	1 5, 1 9 6	3 3 1	
被害面積		ha	ha	ha	%	
	イノシシ	0. 1 8	0. 5 5	0. 1 7	－ 3	
	カラス	0. 5 2	0. 4 9	0. 2 0	1, 0 6 6	
	アライグマ	0. 4 6	0. 4 3	0. 8 1	－ 1, 1 6 7	
	合計	1. 1 6	1. 4 7	1. 1 8	6	
その他 （ ）						

（注）被害金額及び被害面積以外の目標を設けている場合は、その他の（ ）内に記載すること。

4 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果

事業内容	事業量	管理主体	供 用 開始日	利用 率	事業効果 (経営状況含む)
鳥獣被害防止緊急捕獲等対策事業	イノシシの捕獲 令和5年度 81頭 令和6年度 93頭 令和7年度 55頭	—	—		イノシシ捕獲頭数 令和5年度81頭 令和6年度93頭 令和7年度55頭
柏原市鳥獣被害防止対策事業 ※JA大阪中河内と協同で実施	令和5年度 L=1,900m 令和6年度 L=860m 令和7年度 L=1,590m	柏原市 有害鳥 獣被害 防止対 策協議 会	令和5年 3月16日 令和6年 3月24日 令和7年 3月19日		以下、受益地において イノシシの被害を防止 令和5年度1.41ha 令和6年度1.2ha 令和7年度2.49ha
柏原市有害鳥獣駆除事業	有害鳥獣駆除委託 イノシシ捕獲頭数 令和5年度78頭 令和6年度96頭 令和7年度53頭 カラス 令和5年度196羽 令和6年度167羽 令和7年度202羽	—	—		イノシシ捕獲頭数 令和5年度78頭 令和6年度96頭 令和7年度53頭 カラス 令和5年度196羽 令和6年度167羽 令和7年度202羽

(注1) 事業の実施により発現した効果を幅広に記入すること。

なお、処理加工施設を整備した場合は、当該施設の利用率も記入すること。

(注2) 鳥獣被害防止施設の整備を行った場合には、侵入防止柵設置後の圃場ごとの鳥獣被害の状況並びに侵入防止柵の設置及び維持管理の状況について、地区名、侵入防止柵の種類・設置距離、事業費、国費、被害金額、被害面積、被害量、被害が生じた場合の要因と対応策、設置に係わる指導内容、維持管理方法、維持管理状況を別紙1に具体的に記載し、添付すること。

5 総合評価

イノシシについては、J A大阪中河内と協同で侵入防止柵の整備を行い、鳥獣被害防止緊急捕獲等対策事業により積極的に捕獲を進めた。特に令和7年度は、豚熱の影響もあり、捕獲個体数は減少し、被害面積・金額ともに目標を達成した。豚熱が収束した後は、再び被害の増加が予想されるため、引き続き国庫事業等を活用して捕獲体制を維持するとともに、新たな被害発生地域に対しては、迅速に侵入防止柵の整備を図る。

カラスについては、既存の捕獲檻（4か所）を利用し、市事業により積極的に捕獲を進めた。捕獲個体数は減少し、被害面積、被害金額ともに減少し目標を達成した。今後も継続して捕獲を実施する。

アライグマについては、国庫事業にて捕獲檻の導入を図り、捕獲体制を強化しているものの、捕獲個体数はやや減少したが、被害面積・金額ともに大幅に増加し、目標の達成には及ばなかった。一時的に箱わなが不足することがあるため、引き続き、国庫事業を活用して箱わなを増設し、捕獲効率の向上と被害の減少を目指す。

（注）目標が未達成となった場合は、その理由も記入すること。

6 第三者の意見

別紙のとおり

別紙

柏原市被害防止計画目標評価報告書についての意見

イノシシによる農業被害は、金額・面積ともに目標値を大きく下回っており、目標を概ね達成できています。当研究所による農業被害アンケート調査結果でも、農業被害強度や農地への出没頻度が減少傾向にあることから、被害状況が改善されつつあるものと考えられます。一方で、イノシシ生息密度の指標である捕獲効率の調査結果は増加傾向を示しており、豚熱で減少していたイノシシ生息数が回復し始めている可能性が示唆されます。引き続き捕獲圧の強化や防護柵の設置を進めるとともに、適切な防護柵の設置方法やメンテナンス方法に関する講習会を開催するなど、ハード・ソフトの両面で総合的に対策を進めていくことが重要であると考えます。

カラスによる農業被害は、金額・面積とも大きく減少し、目標を達成できています。当所によるアンケート調査でも、令和7年度の被害強度や出没頻度が過去5年間で最少となっており、被害が「深刻」とする回答割合も大きく減少するなど、被害状況の改善が示唆される結果が得られています。引き続き捕獲等の取組を継続するとともに、カラスの分布状況が変化していく可能性も考慮して、近隣市町村との連携も念頭に対策を進めていくことが重要です。

アライグマによる農業被害は、金額・面積ともに基準年度から大きく増加しており、目標の達成には至っていません。一方で、当所によるアンケート調査の結果では、被害強度や出没頻度は増減しつつもやや減少傾向を示しており、継続されてきた対策が一定の効果を発揮しつつある可能性も示唆されます。ただし、依然として被害が「大きい」や「深刻」とする回答が多数みられることから、継続的な取組が必要であると考えられます。総合評価や改善計画に記載されているように、わなの増設や長期設置を避けた効率的な運用を図り捕獲圧を強化していくとともに、妊娠・授乳期である2～6月頃の捕獲数を増加させるなど、効果的な捕獲を進めていく必要があります。